

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名 地域コミュニティにおける課題の設定と解決に向けた協働による新たな取り組み	自治体名 那覇市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	作ろうみんなの防災・防犯オープンチャット ～LINE のオープンチャットを使ってみた～		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	アーバンおろく(なは市民協働大学院)		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→	1.市民	
チームメンバー数(公開)	4名		
代表者(公開)	宮城 駿雅		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

- 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的なチーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

<応募内容の公開>

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上でを行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

<チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデア**を求めます。その結果、課

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

私たちがターゲットとした地域は、地域の見守りや自治会の担い手不足が深刻化しています。自治会加入率は低く、元々薄れつつあった世代間の交流の場は、コロナ禍をきっかけにさらに縮小しました。地域のイベントやお祭りもすっかりなくなり、付近の地域との交流も途切れ、これまでみんなが安心して暮らせるために尽力してきた近所の見守り活動は高齢化により衰退しつつあります。

またこの小学校区は、区域が広く、多くの町が混合して成り立っています。地理的特性から、海拔が低いエリアと傾斜が急なエリアが多く、地域全体が土砂災害・津波災害が懸念される警戒区域となっています。

災害と隣り合わせの地域であるにもかかわらず、地域内や隣町との繋がりはほぼ皆無。この地域の子育て世代、お年寄り、子どもたち、外国人等が、有事の際に助け合える環境も繋がりが整備されていないという課題があります。災害時に真っ先に被害が懸念される地域だからこそ、迅速な情報共有や密な関係性が重要となります。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

<提案するアイデアの内容>

地域の課題を解決するためには、地域住民が繋がれる土台を創り、整える必要があると考え、“LINE オープンチャット”を活用した、地域のデジタル回覧板として広く住民が繋がれる土台創りを進めていきます。

【誰が】

オープンチャットは私たち「アーバンおろく」と地域自治会、小学校 PTA、幼稚園の園長先生等、立ち上げの段階で何度も話し合いを重ねたコアメンバーで管理・運用。イベント開催等は行政や学校を巻き込みながら進行。

オープンチャット参加者は子育て世帯、高齢者、外国人を含む地域住民、地域企業、福祉団体等地域に関わる方も大歓迎。

【いつ】

宣 伝: 随時行います。

イベント: 参加者を増やし利用を促進していくためのイベントを 3~4 か月に 1 回程度行います。

【どこで】

宣 伝: 地域の自治会、小中学校、スーパー・コンビニ、商店等の人が集まるスポット

イベント: 小中学校の体育館、公園、野球スタジアム等、ハード面は豊富。可能性が無限大。

【どのように】

地域住民が必要とする優先度の高い情報をテーマにして(防災・防犯、高齢者向け等)オープンチャットの情報を、徐々に扱うカテゴリを増やしていきます。

当地域の地理的特性でもあり、課題の一つでもある「防災」に着目し、防災・防犯に特化した地域オープンチャット『垣花 BB』を開設し、チラシ配布・掲示での「宣伝」と「イベント開催」の 2 本立てで参加者を増やしていきます。

★1~2か月目: 宣伝期間(目標: 200~300 人)

まずはオープンチャットを広く知ってもらうためにチラシ・ポスターを作成し、自治会、学校、幼稚園、福祉施設、地域企業等へチラシ・ポスターの配布・掲示を行い、周知の協力を依頼。

商店、スーパー、コンビニのような人が集まる場所へも掲示依頼する等、できる限りの宣伝活動を行います。



★3～4か月目：イベント期間（目標：300～500人）

那覇市防災危機管理課の協力のもと、オープンチャットを活用しながら行う「防災運動会」を開催します。

イベント内では、オープンチャットを活用しリアルタイムで発信された情報をもとに競技が進行していきます。また、地域企業の協力を得て、オープンチャットへの参加またはイベント終了後等に近所の協力飲食店で利用可能な特典クーポンがもらえるなどのお得感を用意。例えば、地元カフェではドリンク1杯無料、パン屋さんでは焼きたてパンが1つサービス、居酒屋ではソフトドリンクがサービス等、オープンチャットへの参加を促しながら、地域の交流も図る。

運動会の開催には、那覇市防災危機管理課と連携しながら、イベント好きの方、防災に興味のある方、自治会、小中学校 PTA、幼稚園、地域の飲食店や企業等の協力を想定しています。

★5か月目以降：テーマ拡大期間（目標：500～700人）

オープンチャット内で扱うテーマを拡大しながら、参加者の増加と利用の常習化を図っていきます。

- ・高齢者向けのスマホ教室×オープンチャット
- ・認知症予防教室×オープンチャット
- ・子ども食堂×オープンチャット
- ・外国人向け×オープンチャット
- ・夏祭り×オープンチャット

★1年後：利用の定着化（目標：1,000人以上）

宣伝活動やイベント開催のトライ＆エラーを繰り返しながら、地域のニーズに合った活動にオープンチャットが活用され、地域が繋がれるプラットフォームに近づくように、継続開催していく。

防災、防犯、生活、イベント等、あらゆる場面にオープンチャットの活用が定着しつつある地域を維持。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

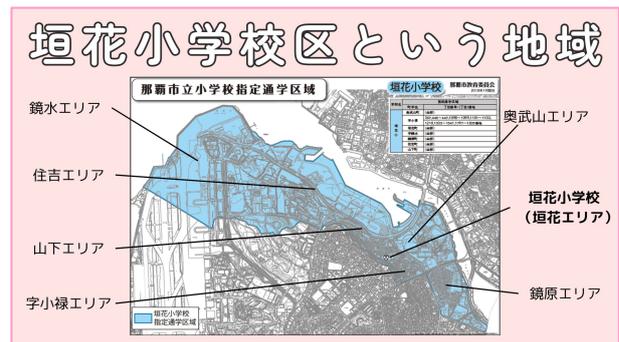
※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

[垣花小学校区という地域]

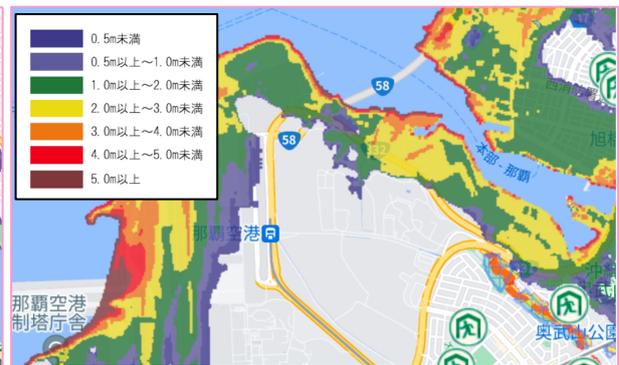
垣花小学校区の人口は5,004人

地域内世帯数は約2,866世帯

この地域は小学校区が広く、計7つの町で構成されています。一部のエリアでは土砂災害警戒区域に指定され急傾斜地の崩壊が懸念されており、周辺は海が近く海拔が低いため、津波等の災害も懸念されているのが特徴です。災害時の指定避難所は区域の小学校と中学校の2か所のみ。



(出典：垣花小学校区 那覇市公式ホームページ)



(出典：なはMAP 那覇市公式ホームページ)

[地域の世代間交流の希薄化（ヒアリングを実施）]

★自治会とPTA

現状の把握を行うために、地域の小学校 PTA 会長、自治会長にそれぞれヒアリングを行いました。

自治会加入率は 10.6% (出典：垣花小学校区 那覇市公式ホームページ) と低く、加えて若い世代の自治体に関する関心は薄く、イベント交流等も全くないことから、将来の担い手が不足している現状がありました。交流イベント等の開催については、人材不足のため開催は諦めていると話しており、周知に関しては、従来の回覧板や自治会経由では、広く情報の伝達が行き渡らず、周知手段は主に各班長が住民宅に直接ポスティングしているという事もわかりました。小学校 PTA のヒアリングでは、交流イベント等の開催に意欲的で、人材は多くエネルギーはあるが、実際に開催するとなると、場所や物品の確保が難しいと感じていることがわかりました。さらに自治会については、自治会の必要性をあまり感じない、高齢化で若い人の意見はあまり受け付けなさそう、等の意見がありました。

このことから、双方の困り感、お互いの持ち味を發揮しあえば補い合える可能性があるものの、交流する機会を伺いながらも平行線をたどったまま今日に至っていることが分かり、交流があれば地域も活性化するのではと考えました。

★災害時の懸念

一方、地理的特性における、災害時の懸念点として挙げられたのは、防災無線が聞こえない、地域住民の連携が全くない、地域の情報を共有する手段がない、災害時の保護者への周知方法が統一されていない、高齢者の避難がどうなっているのか状況把握している人がいない等、有事の際の地域の備えが盤石ではない印象を受けました。

[LINEというプラットフォームを選ぶ理由]

LINE は幅広い年齢層で約 90%の普及率を維持しており、比較的操作が容易です。高齢者サポートのために初心者向け講習会や防災教室を開催することで、操作ハードルは下がり、世代間交流のきっかけにも寄与します。

各世代に「圧倒的な認知度と普及率」を持ち、「コストが掛からず」、「多くの人を使い慣れたオンラインプラットフォーム」であるため、LINEのオープンチャットを活用することは有効だと思われます。

★若年層から中高年層における普及

10代から50代では、インターネット利用率が90%を超え、スマートフォン利用も一般的であるため、LINEは主要なコミュニケーション手段となっています。これらの年代では日常的な連絡手段としてLINEが活用されていることがわかります。（出典：総務省「令和5年版 情報通信白書」）

★高齢者層での普及率

特に注目すべきは高齢者層の普及率の高さです。60代ではスマートフォン利用率が約70%に達し、その多くがLINEを活用して家族や友人と連絡を取っていると報告されています。また、70代以上でもスマートフォン利用者が増加しており、LINEが他のSNSやチャットツールに比べて利用しやすいと感じられていることが、高齢者層での普及を後押ししている要因と考えられます。（出典：総務省情報通信政策研究所「令和4年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

運営主体:アーバンおろく

協力:那覇市役所防災危機管理課、まちづくり協働推進課、地域企業、地域商店等

2. 必要な資源と調達方法

ヒト:地域ボランティア、那覇市(所管課)、学校、自治会、

モノ:スマートフォン、Wi-Fi 環境(可能なら)、イベントに必要な資材(段ボール等)の調達

カネ:初期広報費用(チラシ印刷)、講習会会場費などは那覇市所管課への協力依頼や地域企業協賛を活用

3. 実現にいたる時間軸

★1～2か月目:宣伝期間(目標:200～300人)

まずはオープンチャットを広く知ってもらうためにチラシ・ポスターを作成し、自治会、学校、幼稚園、福祉施設、地域企業等へチラシ・ポスターの配布・掲示を行い、周知の協力を依頼。

商店、スーパー、コンビニのような人が集まる場所へも掲示依頼する等、できる限りの宣伝活動を行います。

★3～4か月目:イベント期間(目標:300～500人)

那覇市防災危機管理課の協力のもと、オープンチャットを活用しながら行う「防災運動会」を開催します。

イベント内では、オープンチャットを活用しリアルタイムで発信された情報をもとに競技が進行していきます。また、地域企業の協力を得て、オープンチャットへの参加またはイベント終了後等に近所の協力飲食店で利用可能な特典クーポンがもらえるなどのお得感を用意。例えば、地元カフェではドリンク1杯無料、パン屋さんでは焼きたてパンが1つサービス、居酒屋ではソフトドリンクがサービス等、オープンチャットへの参加を促しながら、地域の交流も図る。

運動会の開催には、那覇市防災危機管理課と連携しながら、イベント好きの方、防災に興味のある方、自治会、小中学校 PTA、幼稚園、地域の飲食店や企業等の協力を想定しています。

★5か月目以降:テーマ拡大期間(目標:500～700人)

オープンチャット内で扱うテーマを拡大しながら、参加者の増加と利用の常習化を図っていきます。

- ・高齢者向けのスマホ教室×オープンチャット
- ・認知症予防教室×オープンチャット
- ・子ども食堂×オープンチャット
- ・外国人向け×オープンチャット
- ・夏祭り×オープンチャット

★1年後:利用の定着化(目標:1,000人以上)

宣伝活動やイベント開催のトライ＆エラーを繰り返しながら、地域のニーズに合った活動にオープンチャットが活用され、地域が繋がるプラットフォームに近づくように、継続開催していく。

防災、防犯、生活、イベント等、あらゆる場面にオープンチャットの活用が定着しつつある地域を維持。